



10～12月のプロジェクト活動状況

この3ヶ月間はプロジェクト活動が目白押しです。各パイロット水道公社の長期計画に基づく活動の数々。その活動を支援するために着信した2014年度第2陣短期専門家団。また、9月24日から本邦研修に出発していたMAWASUプロジェクトメンバーの帰国。11月にはProject MAWASU第2回国際セミナーおよび第4回P2P(プロジェクト間)会議の開催。12月には水質管理ワークショップの開催など。

本号では、2014年度第2陣短期専門家団、各パイロット水道公社の諸活動、本邦研修の結果、水質管理ワークショップにスポットを当てます。(国際セミナーとP2P会議の様子は別号で紹介します)



2014年度第2陣短期専門家団着任

11月中旬に2014年度第2陣短期専門家6名がラオスに到着。国際セミナー、P2P会議参加を経て、MAWASUプロジェクトメンバーの活動支援に着手しました。専門分野(指導科目)は、プロジェクト開始年度から継続している「配給水管施設計画」、「行政機能/水道事業指標(浄水場施設計画と兼任)」、2013年後半からの「水道事業経営管理(財政)」に、新たに「浄水場施設計画(電気設備)」(続きは2ページ)



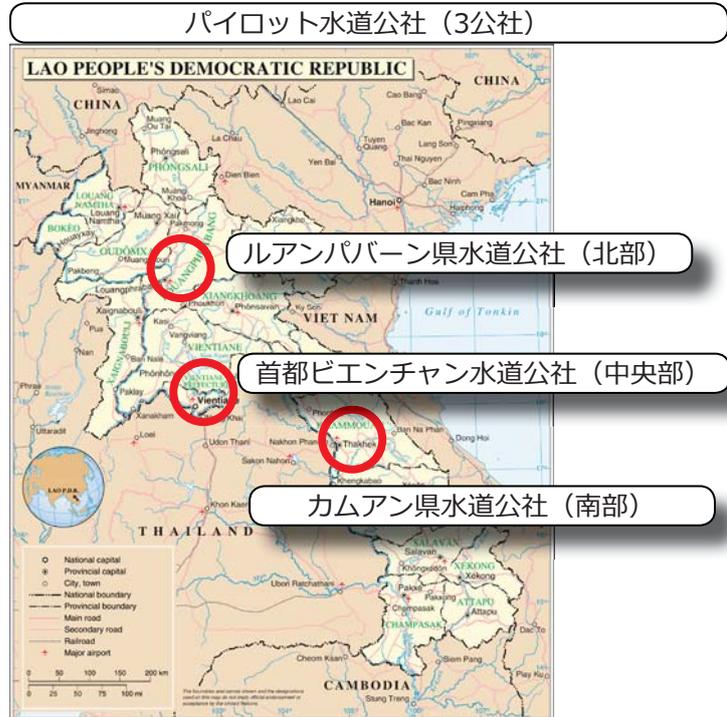
水質管理ワークショップ開催

水道水は飲めるのか?ラオスをはじめ多くの途上国では「Yes!」と即答する人は少ないように思われます。MAWASUプロジェクトでは飲める水の供給だけでなく、お客様に水道水を飲んでもらうことを究極の目標に事業経営全般の能力向上を行っています。近年のラオスでのWHO(世界保健機関)の主な支援は、水安全計画(Water Safe Plan)の作成ですが、安全な水=飲める水を供給するための計(続きは2ページ)

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組み整備を行っています。



2014年度第2陣短期専門家団着任(続き)

「水質管理」分野の短期専門家が加わりました。2014年前半からの「無収水(NRW)管理」短期専門家を加えると、総勢7名の短期専門家団です。さらに、「浄水場施設計画(電気設備)」の2週間の研修員(インターン)を加えると8名でMAWASUプロジェクトメンバーを支援しています。

2014年後半の各パイロット水道公社の主な活動は、長期計画に基づく諸活動を継続しながら、徐々に予算執行額を含む活動実績を整理し、2014年中にできなかった活動を翌年に繰り越すことも考えながら2015年の活動計画・予算を作り上げることです。これはPDCAサイクルをまわす重要なステップですが、多くのMAWASUプロジェクトメンバーは経験したことがないため、Step by Stepで根気よくOJT活動を行っていく必要があります。

The Capacity Development Project for Improvement of Management Ability of Water Supply Authorities
Short-term experts in JFY2014 (II)

 Mr. Yoshikazu Nagano WTP facility planning Working period: 10/11/14 - 27/12/14	 Mr. Takashi Miyagawa Finance Working period: 17/11/14 - 11/01/15	 Mr. Akifumi Abe Water quality management Working period: 12/11/14 - 11/02/15
 Mr. Hiroaki Nakamura Pipeline network planning Working period: 12/11/14 - 11/02/15	 Mr. Tetsuya Konno Pipeline network planning Working period: 12/11/14 - 11/02/15	 Mr. Takeru Hiyama Governance / Performance Indicators Working period: 12/11/14 - 11/02/15

2014年度第2陣短期専門家団

「水道教室」ルアンパバーン県、カムアン県でも開催

前号でお伝えした小学校での「水道教室」。ルアンパバーン県では10月16、17日に、カムアン県では10月22日に実施しました。実施後には、来年は校数を増やしたいと満足感が漂っていました。

これで首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の3パイロット水道公社全てが水道教室を実施したことになります。今後プロジェクトでは分科会を通じて「水道教室実施マニュアル」を作成し、全国展開に向けて準備を行います。



原水(川の水)を用いて浄水過程を実演するMr. Yhoy(ルアンパバーン県水道公社)

今後の主な予定

- 12月26日 長野吉和短期専門家離任
- 1月10日 宮川貴志短期専門家離任
- 1月21日 樋口英雄短期専門家離任
- 2月10日 檜山健、阿部晃文、中村宏明、昆野哲也各短期専門家離任
- 2月12日～中間評価(3月4日まで)
- 3月3日 第3回JCC会議
- 3月13日 人材育成ワークショップ

水質管理ワークショップ開催(続き)

画、実施、評価ツールと言えます。

今回で通算10回目を迎える四半期ごとのワークショップのテーマは水質管理です。水質管理分野の阿部晃文短期専門家によるWSPを含む水質管理概論の講義に続き、①水源、②浄水場、③送水管～高架水槽(配水地)～配水管網ネットワーク、④給水管～給水装置(蛇口)、⑤お客様の思い(水道に対する不信感が発生する理由)のトピックに分かれてグループ討議を行いました。



行政と水道公社職員が一つのグループで多面的に協議

今回は新たに加わったMAWASUメンバーや久しぶりに問題分析型のグループ討議を行ったこともあり、原因と結果の連鎖に戸惑う場面も見受けられましたが、1回で完璧を目指すのではなく、Step by Stepで自ら改善を促すというMAWASUプロジェクトの考え方としては、参加者にとって問題意識を持つ有意義なワークショップであったと言えます。また、水質管理は水質管理担当職員だけのものではなく、水源から蛇口、お客様の思いまで水道事業全体に関わることを参加者全員が認識できたのも大きな収穫です。

次回のワークショップは2015年3月に人材育成のテーマで実施する予定です。

本邦研修参加者ラオスへ帰国

9月24日から45日間の本邦研修に出発したMAWASUメンバー10名が11月7日に無事に帰国しました。今年の本邦研修から、公共事業運輸局住宅都市計画局(DHUP)、同水道規制室(WASRO)、3パイロット水道公社に、3パイロット県公共事業運輸局(DPWT)が加わり合計10名が参加しました(うち1名は通訳としてプロジェクト事務所から参加)。

帰国後に各組織の週会議やプロジェクト月例会議で報告会に出席することがありますが、印象的なのは本邦研修中に各自が作成したAction Planに誇りを持っているということです。参考までにAction Planの項目を記してみると...

1. Mr. Sounthala (DHUP): Lao Water Works Association
 2. Mr. Bounthavy (WASRO): Monitoring and Evaluation of Water Supply
 3. Mr. Viengneurn (DPWT-VTE): The Operating Systems of Water Supply
 4. Mr. Bounpone (DPWT-LPB): Management Organization
 5. Mr. Phetphonemany (DPWT-KHM): Pipeline Laying (Regulation)
 6. Mr. Siphanh (NPNL): Human Resource Development
 7. Ms. Ongsong (NPNL): Customer Relations (Call Center)
 8. Mr. Ladda (PNP-LPB): Long Term Plan of Luang Prabang Water Supply Development 2014-2020
 9. Mr. Soulaphong (PNP-KHM): Improvement of Call Center
- Action Plan作成には歴代の短期専門家も研修場所に駆けつけ研修員を支援をしていただきました。今後プロジェクト活動を通じてフォローアップを行っていきます。

*** 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております ***

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話 : jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ : <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>